

長岡にとって 8月1日が どういう日か 知っていますか？



昭和20年8月1日午後10時26分、長岡のまちに空襲警報が鳴り響き、直後の10時30分にアメリカ軍大型戦略爆撃機B29が焼夷弾爆撃を開始しました。市民の住む市街地を目標とした無差別じゅうたん爆撃によって、長岡のまちは瞬く間に炎に包まれました。翌2日の午前0時10分まで1時間40分にもわたったすさまじい空襲によって市街地の八割が焼け野原となり、わかっているだけで1484人の市民が犠牲となりました。

この空襲を当時の新聞「ニューヨーク・タイムズ」紙では、8月1日に長岡・富山・水戸・八王子の四都市の爆撃に用いた爆弾の量が、1回の空襲では史上最大の規模であったと報じました。

8月1日に起こった悲劇…長岡空襲

(参照) ながおか市政だより 2005年8月号より
※被災殉難者数については2012年7月4日現在のデータに基づいております。

長岡空襲の被害

死者数 わかって
いるだけでも
1,484人

昭和20年7月の長岡市人口 74,508人

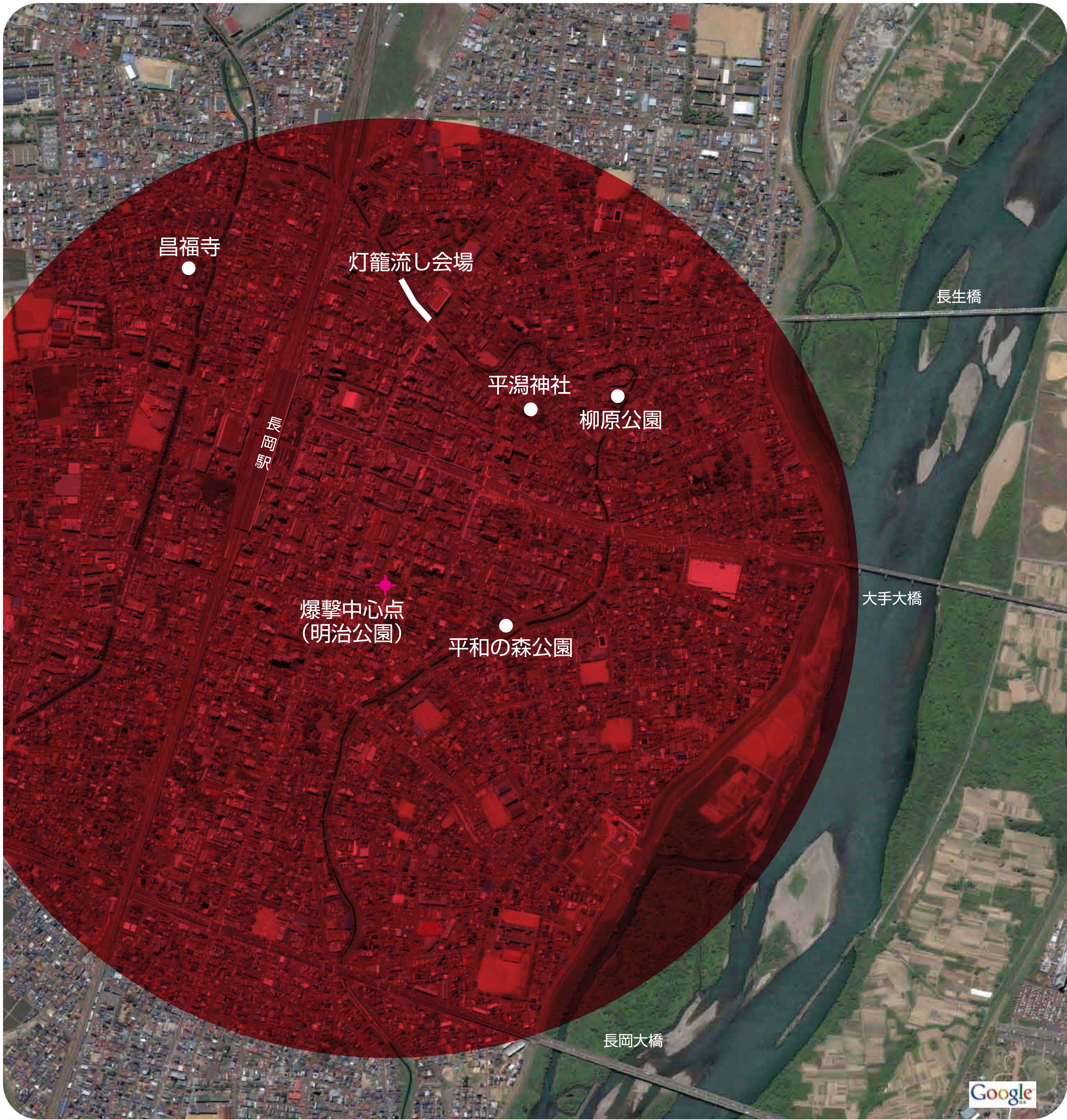
※平成25年7月7日現在

被災戸数
11,986戸

飛来した
爆撃機の数
125機

投下された焼夷弾の量
924.3トン
約**163,500発**

(データ) ながおか市政だより 2005年8月号より
※被災殉難者数については2012年7月4日現在のデータに基づいております。



ながおか くうしゅう はんい
長岡空襲の範囲

ながおかくしゅう めいじ こうえん ちゅうしん
 長岡空襲は、明治公園を中心とする
 はんけい はんい
 半径1.2キロメートルの範囲の市民
 す しがいち
 が住む市街地をねらったものでした。



(Photo) 北越印刷工場焼跡

くうしゅう ちよくご かきがわ
空襲直後の柿川



かきがわ

柿川

長岡空襲の夜、立ち込める炎から逃れようとたくさんの人々が柿川に飛び込み、多くの方が亡くなりました。柿川をはじめ長岡空襲で亡くなった戦災殉難者の慰霊を目的として、翌年(昭和21年)8月1日から信濃川で灯籠流しが始められました。

その後、環境汚染などの問題から一度は中断された灯籠流しですが、昭和59年長岡市議会が県内初の「非核平和都市宣言」を可決したことに伴い、(社)長岡青年会議所の呼びかけと復活を望む多くの市民のご協力により、会場を柿川に移し現在に至っております。



柿川戦災殉難地の石碑(柳原町)

へいわ もり こうえん

平和の森公園

長岡空襲の犠牲者1,482名の中には、280名余の学童が含まれていました。平和の森には、このいたいけな学童たちの霊を慰めるために、『平和の像』が建てられています。この像は、県教職員組合が、全県下から募金を募り、慰霊と平和への限らない願いを込めて作成しました。昭和26年11月に長岡駅前広場に設置され、その後悠久山公園、明治公園と移転し、平成8年、現在の平和の森公園に安住の地を得ました。平和の像の中には、銅版に刻まれた「昭和二十年八月一日長岡市戦災学徒名簿」が納められています。

長岡戦災資料館発行「太平洋戦争と長岡空襲」より抜粋



ひらかた じんじや

平潟神社

長岡空襲で特に被害の大きかった場所のひとつが、大型の防空壕のあった平潟神社でした。「防空壕の中にいれば安心だから」と、多くの長岡市民が平潟神社の防空壕に集まり、亡くなりました。

平潟神社にある『長岡市戦災殉難者慰霊塔』は、その殉難者の霊を慰めるとともに、このような不幸を再び繰り返さないよう願いを込めて、一般市民からの寄金、及び県と市の補助金によって建設されたものです。



長岡市戦災殉難者慰霊塔

しょうふくじ

昌福寺



長岡空襲で命を失った1,482名のうち、身元が確認できない犠牲者の遺体は、無縁仏として合同で火葬に付され、昌福寺の境内に葬られました。その後の昭和22年9月、市民の浄財を得て、殉難者の墓が建てられました。

戦災殉難者を慰霊するため、昌福寺では、毎年8月1日に慰霊祭が行われています。早朝墓前供養がしめやかに行われ、大勢の人々がお参りに参列しています。



もうひとつの長岡空襲

ながおか こうしゅう



模擬原子爆弾投下地点跡地

げんしばくだん

原子爆弾と聞くと、広島と長崎を思い出す人が多いでしょうが、実は長岡にも模擬原爆が落とされているのです。

1945年7月20日午前8時13分頃、長岡市左近地区

(信濃川近くの畑)に模擬原爆が落とされました。死者4名

ばくげき ちてん ふきん

(爆撃地点付近の畑にいた20歳と15歳の兄弟を含む4

人)、負傷5名、付近の31戸の家屋に被害をもたらしました。

長岡に投下された模擬原爆は、原子爆弾の投下訓練と

して行われたもので、8月9日、長崎に落とされた原子爆弾

とほぼ同じ型のものでした。



復興の歴史と 長岡まつり

ふっこう

れきし

ながおか

長岡市では、8月1日という日を忘れず、

戦争で亡くなられた人たちの霊を慰め、

長岡市が再び発展することを願って、翌

年の昭和21年8月1日に「長岡市戦災

復興祭」が行われました。昭和22年から

は、戦争のために中止となっていた長岡

名物の大花火大会も復活しました。その

後も、年々盛んになり、昭和26年からは

「長岡まつり」と名前を変えて現在まで

続いています。



柿川灯籠流し

ことし かきがわ とうろう なが おこな
今年も8月1日に柿川灯籠流しを行います。

いれい き も へいわ いの
ぜひ慰霊の気持ちと、平和への祈りをこめて
とうろう なが おも
灯籠を流していただければと思います。

柿川灯籠流し事業の歴史

しゅうせんご せんじんたち じんりよく みごと
終戦後、先人達のご尽力により見事な
ふっこう な こんにち こうしゅう むざん
復興を成した今日では、空襲による無惨
な傷跡はどこにも見る事ができなくなり
ました。しかし、へいわ めぐ
平和で恵まれたくらしの
なか せんさい と し ながおか れきし ふうか
中で戦災都市である長岡の歴史を風化
させてはいけないという思いから、我々
(一社)ながおか せいねんかいぎしょ しょうわ
(一社)長岡青年会議所では、昭和59年、
ながおかし ひかく へいわ とし せんげん う おお
長岡市の「非核平和都市宣言」を受け、多
くの市民の協力の下、へいわ いの
平和への祈りを
こ かきがわ とうろう なが じぎょう かいし
込めて『柿川灯籠流し事業』を開始しまし
た。まいとし おおぜい かた いれい
毎年8月1日には大勢の方が慰霊の
き も かきがわ おとす
気持ちをもって柿川に訪れます。



柿川灯籠流し事前清掃



柿川清掃事業は、昭和57年より環境美化運動と市街地
 活性化の目的で「柿川クリーン作戦」として始まりました。
 そして、近年では柿川灯籠流しの事前準備としての清掃へ
 と変化し、平成12年から正式に「柿川灯籠流し事前清掃」
 として引き継がれてきています。
 一般社団法人長岡青年会議所では、8月1日の柿川灯籠
 流しに参加される方々が、安全に灯籠を流していただける
 ように、柿川灯籠流しの会場を清掃しています。

灯籠飾り



戦災殉難者の方々への慰霊の想いと、恒久平和への願
 いをもって継続されてきた柿川灯籠流し。二度と繰り返さ
 れてはならない長岡空襲の史実を、これからの次代を担う
 若い世代の方々に伝えるために、市内の小学校、中学校に
 協力してもらい、灯籠飾りの制作を行ないました。